

## 今週のビルマのニュース 2008年10月17・24日合併号【0832号】

### 今週の主なニュース：ビルマへの援助をめぐる論争

・5月のサイクロン襲来後、ASEAN・国連・軍政が合同で行った被災状況調査の報告書（PONJA報告書＝7月に発表）について、独自の救援活動などを行う19のビルマ市民団体が「内容が偏っており包括的でない」と批判した。19団体は、軍政による援助物資の横流しや、被災地域での強制労働や土地収奪などの深刻な問題がPONJA報告書で触れられていないことを指摘し、これらの問題をまとめた独自の分析書（“Post-Nargis Analysis: The Other Side of the Story”、秋元由紀著）をまとめ、16日にASEAN事務局のあるジャカルタで発表した（17日付AFPほか）。

・シンクタンクの国際危機グループ（ICG）は20日、サイクロン後のビルマの状況について報告書を出した。この中でICGは、サイクロン被災地域以外でも深刻化している人道危機に早期に対応するため、今後国際社会は援助への制限を解除し、災害救援にとどまらず教育や保健、経済政策の改善、市民社会の育成といった分野に対するものも含めて援助を大幅に増やすべきだと述べた。

### その他：スーチー氏の拘束期間が丸13年に、ほか

・24日、民主化指導者アウンサンスーチー氏が自宅軟禁下で過ごした期間がちょうど13年になった。ワシントンDCとロンドンでは中国大使館の前で抗議デモが予定されている。

・北京で24日からアジア欧州会議（ASEM）首脳会議が始まった。国際人権団体ヒューマン・ライツ・ウォッチは「人権状況を改善するようビルマ軍事政権に圧力をかける絶好の機会」として参加首脳に行動を求めた。ビルマからは軍政のテインセイン首相が参加（23日付DPA）。

・国連事務総長はビルマの人権状況についての国連総会への報告（9月17日付）の中で、軍政が民主化実現に向けて国連や国際社会の期待に応えようとする姿勢が見られないことに挫折感を覚えると述べた。

・ミャンマー国営石油会社（MOGE）は2日、ベトナム石油グループ（ペトロベトナム）らとモッタマ湾のM-2天然ガス鉱区での探鉱をすることで合意した（6日付VNAほか）。

・軍政はシンガポールとタイの企業とテナセリウム管区に設置出力600メガワットの水力発電所を建設

するという覚書を交わした（12日付国営新聞、13日付イラワディ誌ほか）。

・ビルマ軍政への抵抗を続けるカレン民族連合（KNU）は第14回総会で、2月に暗殺されたマンシヤ書記長の後任にジッポラーセイン氏を選任した。KNU幹部職への女性の就任は初めて。

・世界自然保護基金（WWF）は15日、ビルマでトラなどの野生ネコの毛皮などの取引が活発で、この18年間で1000匹以上の毛皮などが市場に出回っていたとする調査結果を発表した（15日付AFPほか）。

・在日ビルマ人A氏が難民不認定処分の取り消しを求めていた訴訟の控訴審で、東京高裁は23日、一審判決を取り消し、難民として認める判決を出した。

・24日に東京・千代田区で「ビルマ（ミャンマー）サイクロン被災者救援チャリティ・コンサート」が開催された。歌手の沢知恵氏、クリエイターのいとうせいこう氏らが出演（19日付JANJANほか）。

### ビルマへの政府開発援助（ODA）約束状況など

新たな発表はなし

### イベントなど

・宇田有三写真展「アウンサンスーチーとビルマ」（岐阜県 瑞浪芸術館、10月25日～11月24日）

・第29回日本定住難民とのつどい ベトナム、ラオス、カンボジア、ミャンマー（ビルマ）などからの難民定住者の歌・民族舞踊の披露あり（新宿区立新宿文化センター、26日13時～）

・第24回世界仏教徒会議日本大会 シンポジウムにビルマ僧侶アシン・ナヤカ師出席（浅草ビューホテル、11月15日12時～）

### もっと詳しい情報は

きょうのビルマのニュース（平日毎日更新）  
<http://d.hatena.ne.jp/burmainfo/>

ビルマ情報ネットワーク  
<http://www.burmainfo.org/>

### お問い合わせ

ビルマ情報ネットワーク 秋元由紀  
[yuki@burmainfo.org](mailto:yuki@burmainfo.org) 080-2006-0165